



コロナウイルス影響下における

夫婦・家族のための全世界祈禱日

(2020年6月6日)

資料

今、現実起きていること：

コロナウイルス感染症は公衆衛生上の危機ですが、ご存知のとおり、この危機は無数の個人のみならず、夫婦や家族関係にも感情的、霊的な難題を突きつけています。この状況は、不安、ストレス、緊張、集団的な不幸や悲しみ、そして霊的な不安定ささえも引き起こしています。愛する者を失うことに加え、雇用、安心感、お祝い（卒業、誕生日、結婚式、献児式など、かつてはわたしたちの生活の一部であったもの）なども失われています。実のところ、わたしたちは今までの生活の正常さそのものを失ったのです。夫婦や家族関係は、悪魔によって確実に乗っ取られつつあります。それゆえ、今こそ祈りのうちにこれらの心配ごとを主のもとへ携えて行き、「何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対する私たちの確信です」（ヨハネの手紙一 5章 14節）という約束を覚える時です。

2020年6月6日が、夫婦・家族関係に対する神のみ約束を信じ求める日となるように願っています。今こそ、神が不可能を可能にしてくださると信じる時です（フィリピの信徒への手紙 2章 5節）。それは、神がわたしたちにキリストの心を持たせてくださることによって起こります。神が共にいてくださることによって、わたしたちが互いに忍耐強くなり、親切になり（コリントの信徒への第1の手紙 13章 4節）、わたしたちの夫婦・家族関係において日々、霊の実（ガラテヤの信徒への手紙 5章 22、23節）を表すことができますように。



世界を越えた一つの家族として団結するなら、
わたしたちは神にある平和と癒しを見いだすでしょう。

【特別祈禱日のための参考聖句】

- 「それから、わたしを呼ぶがよい。苦難の日、わたしはお前を救おう。そのことによって／お前はわたしの栄光を輝かすであろう」詩編 50 編 15 節
- 「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう」フィリピの信徒への手紙 4 章 6～7 節
- 「神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。わたしたちは決して恐れない／地が姿を変え／山々が揺らいで海の中に移るとも」詩編 46 編 2、3 節（口語訳 1、2 節）
- 「互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい」エフェソの信徒への手紙 4 章 32 節
- 「恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える」イザヤ書 41 章 10 節
- 「わたしの神は、御自分の栄光の富に応じて、キリスト・イエスによって、あなたがたに必要なものをすべて満たして下さいます」フィリピの信徒への手紙 4 章 19 節
- 「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず／常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば／主はあなたの道筋をまっすぐにして下さる」箴言 3 章 5、6 節
- 「神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです」テモテへの手紙二 1 章 7 節
- 「夜、脅かすものをも／昼、飛んで来る矢をも、恐れることはない。暗黒の中を行く疫病も／真昼に襲う病魔も／あなたの傍らに一千の人／あなたの右に一万の人が倒れるときすら／あなたを襲うことはない」詩編 91 編 5～7 節

- 「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる」 **マタイによる福音書 7 章 7、8 節**
- 「もしわたしの名をもって呼ばれているわたしの民が、ひざまずいて祈り、わたしの顔を求め、悪の道を捨てて立ち帰るなら、わたしは天から耳を傾け、罪を赦し、彼らの大地をいやす」 **歴代誌下 7 章 14 節**
- 「わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな」 **ヨハネによる福音書 14 章 27 節**

【特別祈禱日のための参考引用文】

「祈り——それは神と私たちの魂との交わりの通路です。神はみ言葉を通して私たちに語りかけ、私たちは祈りを通してその語りかけに応えます。そして神は、いつも私たちの祈りに耳を傾けてくださいます。私たちがどれほど頻繁に、絶え間なく祈ろうとも、そのことによって神がうみ疲れたり、煩わしく思ったりすることなどは決してありません」（『祈り』5 ページ）。

「天国の最も美しい型は、主のみたまが支配しておられる家庭である。神のみこころが完全に行われていれば、夫と妻は互いに尊敬し合い、愛と信頼を深める」（『希望への光』クリスチャン生活編 588 ページ）。

「現在、私たちはきわめて憂慮すべき、危機の時代に生きています。世界に起きる深刻な諸事件を目の当たりにする時、キリストに従う者としての私たちには、今こそ真剣に、本気で神との交わりを密にすべきことが求められているのではないのでしょうか。神との関係をより堅固なものとし、心と霊の必要をより豊かに満たすためには、私たちは祈りのちからについて学ばなければなりません。かつての主イエスの弟子たちのように、『主よ、……わたしたちにも祈ることを教えてください』と最も切に懇願しなければならない時代があるとすれば、それはまさに今です」（『祈り』5 ページ）

「家庭を、家庭ということばが意味するとおりのものにしなければならない。家庭は地上にある小さな天国、愛情をつとめて抑えるところではなく、育てるところでなければならない。わたしたちの幸福は、お互いに対するこの愛と同情と真の礼儀を育てることにかかっている」(『希望への光』クリスチャン生活編 588 ページ)。

「真の敬虔が私たちのうちに回復されることは、すべての必要の中で最大の、最も急を要するものです。これを求めることが、私たちの第一にしなければならないことです」(『祈り』189 ページ)。

「われわれがこのようにして求めなければ与えられないものが、信仰の祈りにこたえて、われわれにさずけられることが、神のご計画の一部である。」(『希望への光』1853 ページ)

「祈りとは、友だちに語るように心を神に打ち明けることです。これは、何も私たちがどんな者であるかを神に知らせる必要があるからではなく、私たちが神を受け入れるのに必要だからです。祈りは、神を私たちにまで呼び降ろすのではなく、私たちが神のもとへ引き上げるのです」(『キリストへの道』131 ページ)

* FAMILY.ADVENTIST.ORG より、他の資料もご覧いただけます (英語)。

